



公益財団法人 School Aid Japan バングラデシュ通信



2013年9月号 No. 9

夏期講習

8月25日から5日間、夏期講習を行いました。夏休みを有意義にすごせたのか、はたまた久しぶりに友達と会えるからか、生徒は笑顔で登校しました。

レベル別に設定された授業で、二学期までの数学の内容を総復習しました。

演算法則、図形、角、作図や証明問題などを扱いましたが、生徒を悩ませるポイントは万国共通なのではないでしょうか。数学の教員である筆者が見て、日本の生徒が悩みやすいポイントで、やはりつまづいているように感じました。

具体的には、分数の概念、分数表記のルール、通分法などが挙げられます。これらの理解なしに、作業だけで問題に取り組んできた生徒は日本同様、ミスが目立ちます。

NDMHSの数学科教員のアブ・サイド先生は、「よりどころとする定義や定理、計算法則の定着が第一段階です。丸暗記をする生徒が多くいますが、暗記すべきところと理解すべきところの区別をつけ、考えるための基礎補強が今回の講習の狙いです。それは発展クラスの生徒にも言うことが出来ます。理解なき暗記は長期における実力にはなりません。」と言います。

全ての教科で言えることですが、言葉で説明させることで、わからないことを自覚することができます。「わかりましたか？」と教員が聞き、「はい、わかりました！」と生徒が答えるシーンがバングラデシュではよくありますが、本当に理解できていないのにそこをピックアップせずに先に進んでしまうことで、生徒の成長が見捨てられていることも事実です。アブ先生の授業では、本当に理解できているかをチェックするための、生徒に説明させる機会が多くあります。



アブ・サイド先生の夏期講習



相手に教えることで自分の理解を深めます

「講習はどう？」と生徒に聞いてみると、「考える事が多く、授業が終われば疲れますが、先生の質問に答えられたときは、本当にうれしいです！」とある生徒は言います。

5日間の夏期講習で久しぶりに頭を使った生徒たち。個々の思いを胸に帰ってゆき、今度は9月1日に登校します。学校で彼らに会えるのが楽しみでなりません。

新校舎建設

現在、NDMHSは本校舎建設に着工しております。(現在は仮校舎で運営しております。)場所は仮校舎から200mのところにあります。1月の完成式に向け、現場では綿密に作業が進められております。

現場付近で工事着工のための人の出入りが増えた事により、日本で言う喫茶店やコンビニにあたるお店が3つできました。工事現場の方々や運送業者の方々はその場で休憩をされます。

ある日、現場の視察の帰りにそのうちの1つのお店に立ち寄った時、店主の方に「NDMHSの職員さんですか。噂は聞いていますよ。ここに良い学校ができると聞いて、住民はみんな喜んでおります。数年後には人がいっぱい引っ越してくるでしょう。みんなで楽しみにしています。」というお声を頂きました。

地域の方々も、学校の完成、運営を楽しみにしてくださっているようで、こんなに喜ばしいことはありません。

2014年度がこの校舎で始まる事が、今から待ち遠しくて仕方ありません。



NDMHS 本校舎建設現場



地域の方々